

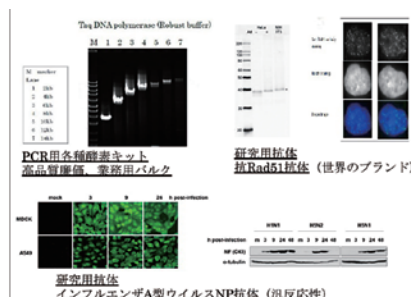
# バイオアカデミア 株式会社

http://www.bioacademia.co.jp/

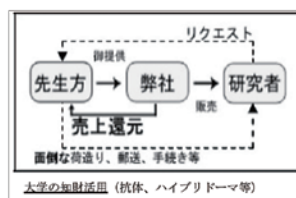
所在地 大阪府茨木市彩都あさぎ7-7-18 彩都バイオヒルズセンター301号 TEL&FAX 072-643-4660 072-643-4701  
 代表者 代表取締役社長 品川 日出夫 創年月日 2005年7月1日 資本金 6,200万円 従業員数 7人

## 事業内容

バイオアカデミア株式会社は、大学や研究機関の知財をもとにした医学・生物学研究用試薬を製造・販売するバイオベンチャーである。大学等の研究者が自身の研究に使った学術上重要でユニークな研究成果有体物を多数商品化して、世界中の研究者に供給している。細菌毒素タンパク質及びそれらの抗体のラインアップは世界的にみてもトップレベルである。HIV（エイズウイルス）の組換えタンパク質、特に逆転写酵素とプロテアーゼは創薬のターゲットとして活用されている。HIV、C型肝炎ウイルス、ヘルペス、インフルエンザウイルス等の抗体のラインアップも進んでいる。PCR用酵素含む遺伝子工学用試薬は大学や遺伝子検査会社に業務用として、高品質で廉価で提供している。同社の保有するバイオエタノール生産用優良酵母（特許）は国内外で産業用にライセンス供与を行っている。その他、DNA複製・修復・組換え、癌、成長因子、エピジェネティクス等の研究用のタンパク質や抗体など、世界水準の品質と価格の製品を数多く揃えている。



医学・生物学研究用試薬の例



大学等の研究成果有体物（抗体、ハイブリドーマ等）の供給スキーム

## 知的財産活用事例

日本のバイオメディカル分野の研究は質・量において世界の一流のレベルに達している。しかし、その研究を支える研究用試薬、臨床診断薬、創薬開発支援のためのアッセイキットなどの大部分は外国製品に頼っている。そこでバイオアカデミア株式会社は、日本の大学・研究機関の多数の研究者とのネットワークを活用し、日本の優秀な研究者の研究室に眠る有用な研究成果有体物を発掘して商品化し、世界のマーケットに販売する事業を展開している。同社が扱う研究成果有体物としては、医学・生物学の研究に有用なタンパク質・抗体・ハイブリドーマ・組換えタンパク質発現系など多岐にわたるが、それらを販売するにあたり、大学や研究機関等との間でMTA（研究成果有体物移転契約）を結んでいる。販売は、直売・小売業者・問屋・海外バイオ試薬メーカーなど複数のチャンネルを組み合わせて利用している。現在、海外向けの売上が60%を超えたが、今後更に増やしていく方針である。

## 知的財産の創出や活用に関する取組

バイオアカデミア株式会社の事業はこれまでは研究成果有体物の導入が主であったが、同社独自のバイオエタノール用優良酵母について国際特許を取得するなど、自社の研究シーズに基づく新規事業にも力を入れている。文部科学省支援のポスドク・インターンシップ制度を利用して、博士人材を採用しており、大学等との共同研究を拡大できる体制を整え、今後ますます共同研究を増やす方針である。現役の大学教授および定年退職した大学教授を外から学術顧問として迎えて、研究開発能力・知財創出能力を高める予定であり、彩都バイオヒルズセンター内の同社ラボでの事業は今後より一層活発になると思われる。

## 起業を目指す人への知的財産に関するアドバイス

バイオベンチャーにとって知的財産は重要であり、それを事業としていかに活かすかをよく考えるべきである。自社保有の特許を活かす事業も一つだが、それに限らず、大学や研究機関の特許を導入して活用する事業も視野にいれると良い。

その他、起業にあたっては下記にも留意すべきである。

1. 設立資金と運営資金の両方を考える。
2. 設立のときから販売できる商品を出していき、キャッシュフローがうまくいくようにする。
3. 販売戦略をしっかりとる必要がある。良い製品を作って安く販売しても売れるとは限らない。
4. 定年退職教授を採用して、若い社員に技能の継承を図る。